

## 「創意工夫」で新たな一步

山形商工会議所青年部会長

菊野 政治氏



令和3年度の山形商工会議所青年部第32代会長に就任しました。青年部の仲間と歴史と伝統を繋いで来られた諸先輩、そして、新型コロナウイルスで厳しい状況に置かれている地域の皆様への恩返し、

仲間への思いを込めて、力不足ではありますが、皆様のご支援をお願いいたします。

新型コロナにより昨年1年間、青年部活動もまた自粛を余儀なくされ、30年を超える歴史を積み重ねてきた「第32回日本一の芋煮会フェスティバル」を中止せざるを得ませんでした。そうした中で、どういう形で「日本一の芋煮会」を発信することができるか、前任の小林寛治会長、公平雅士実行委員長を中心に代替イベントを模索し、会場を移してドライブスルー方式で、4000食の芋煮セットをテイクアウトしました。併せてオンラインで販売しました。また、苦境に立たされた飲食店を支援するため、クラウドファンディングで「山形東矢プロジェクト・みらい飯」を実施しました。プロジェクト名の「東矢」には、気持ちを一つにして困難を乗り越えよう、食で山形を元気にしようという思いを込めました。

私たち青年部は自社を発展させ、経済を循環させて地域社会の豊かさ実現に貢献する使命を持っています。ワクチン接種が医療従事者、高齢者と順次開始されていますが、経済へのダメージは大きく、コロナとの闘いはまだまだ続きます。私は包装用品、店舗用装飾品、販売促進用品などの卸売・小売を経営しておりますが、事業を通じてまた、飲食店を営んでいる仲間の実情、会議所のアンケート調査などから感染防止と経済活動の両立は難しいと実感しています。

しかし、こうした状況だからこそ、2021年度の青年部のスローガンを、新たな第一歩を踏み出す決意を込めて「創意工夫」としました。コロナによって変化を余儀なくされた社会経済情勢にあって、変化を恐れず私たち青年部が立ち向かって、切り拓いていこうと考えています。

その上で、以下のように基本運営方針を提案いたしました。親会である会議所、行政、諸団体と積極的に交流し笑顔あふれる山形を創造するため、第一にメンバーの資質向上を目指し、毎月の例会や事業を通して有意義な学びの場を提供。そこでの学びを会社や家族にも広め自己研鑽に努めること。第二に会員の増強。現在、会員数は100人を割っています。青年部活動を説明し経営者、企業の方々に理解を求めていく努力を行うこと。この2つを基本的な方針とします。

現在、日本一の芋煮会フェスティバルをはじめ様々な事業について検討作業を開始しています。感染症がどのような状況になるのか、状況次第ですが、フェスティバルの「聖地」馬見ヶ崎河川敷で、「シンボル」の日本一の大鍋3代目鍋太郎を登場させることを念頭に、創意工夫を凝らしたいと思っています。山形を支える一人の青年経済人として、また、青年部会長として全身全霊で青年部を明るく元気に盛り上げ結束を強くし、課題に挑戦して参ります。なにとぞ会議所会員皆様のご支援、ご協力をお願い致します。

(株)キクノ代表取締役社長